

姫路市医師会報

○編集後記

No. 324 平成18年5月1日発行

春が来ました。嵐の季節です。

先日、医師会館での広報委員会（この号の編集をしていました）の編集会議が終わって、帰る途中のことでした。委員会を開いた部屋が4階でしたので、エレベーターに乗りました。扉が閉じて少し下がったとたんに、ガクンと揺れてエレベーターが止まってしまいました。幸い、明かりは消えなかったのでパニックにはなりませんでしたが、不安な一時を過ごしました。まさか、落ちては行かないとは思いましたが、もし、万一、このまま落ちていった時には、天井で頭を打つことになるから、持っている鞆を頭に置いておけば少しはましかもしれない。イヤイヤ、地下まで落ちたら今度は足下が危ないので効果はしれている。数十年前の日航機事故では家族あての遺書を書いた方がおられたけれども、そんな余裕は気持ちの上でも時間的にもない。どうしよう。長時間閉じこめられることになったら、トイレは大丈夫かな。などなど、いろいろな事が一瞬にして、あるいは後で思い返せば救出された直後の数分だったかに頭をよぎりました。「救出」とは書きましたが、何のことはない、2～3秒後に自動的に一番近い3階に止まり、扉も開き、その後は階段で1階まで無事にたどり着きました。医師会館のエレベーターは優秀でした。あとで警備員さんに聞くと、強い雨と雷があり、雷がどこかに落ちて一瞬の停電があったためだったようです。春の嵐にびっくりさせられました。

30年前の春の嵐を思い出しました。学生時代にヨットのクラブに入っておりまして、西宮の沖で練習をしていました。5月のことでした。小さな競技用のヨットに乗って午後の海に出ていきました。しばらく練習をしていると、たちまち空が黒くなったかと思うと突風が吹いてきて、全てのヨットが転覆してしまいました。私たちの乗っていた競技用のヨットは風が強すぎて操船に失敗すると、時々横転してしまいますが、すぐに起きあがって走り出すのが常でした。しかし、この時は強い風が、長い時間続いていたために、転覆したまま、1時間ほど海を漂い、甲子園の浜にながれ着きました。今思うと、よく無事で戻ってこられたなどと思う大変なことだったのですが、当時の私たちにはあまり恐ろしかったという思いはありませんでした。これが若気の至りだったのでしょう。当然、天候の読みの甘さを反省し、また、あちこちでお叱りを受けたのは言うまでもありませんでした。

この度の、春の嵐は、皆様のところにはどのような風が吹いていますでしょ

うか。4月からの診療報酬改定のことです。あまりの影響の大きさに、閉鎖に追い込まれる医療機関もでてくるかもしれないと言われています。私どもの病院にも突如強い風がおそってきました。慢性期病床とリハビリ部門がありますので、ダブルパンチです。倒れてしまわないように、勝ち組でなくてもよいから、生き残り組に入れるようにと、毎日ミーティングを繰り返しています。嵐が過ぎれば何事もなかったかのように帆走しているヨットを思い描いて、しばらくの辛抱と頑張りだと思って、日々過ごしております。

この号より、新たな広報委員会のメンバーとなっています。会員の皆様のいろいろな意見が反映できるような紙面を作っていきたいと考えております。よろしく願いいたします。